

緑の相談コーナーだより

NO. 314 2011. 8. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “アジサイ” (紫陽花)

～梅雨彩る庶民的な樹花～



Hydrangea macrophylla SERINGE
var. *Otaksa* MAK.
アジサイ

ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木で、日本原産の樹木とされ、広く園芸用に栽培されていますが、これらはガクアジサイが母種とされ、品種は多く、大きく分けて日本アジサイと西洋アジサイの二つがあります。日本のアジサイはつつましかですが、青紫の基本種のほか花色の変化が多く、西洋のアジサイはボリュームがあり、華やかさを感じさせます。しかし、いずれも強い繁殖力をもち、日本の梅雨空の下、嬉々とした風情で花を咲かせます。西洋アジサイは学名のハイドランジアの名で呼ばれることが多いですが、もともとは日本のものが中国を経てイギリスのロンドンに入ったのが始まりといわ

れ、西洋のアルカリ土壌で赤花となり、それが戦後、日本に逆輸入されて普及しました。20世紀にはオランダ、ベルギー、フランスなどを中心に品種改良が進んで、現在では400～500の品種があるといわれます。花の色が変化することから、別名七変化とも呼ばれ、中国では八仙花、万葉集では「四ひらのはな」として登場します。また、紫陽花という漢字は白楽天の詩からとられましたが、中国では全く別の植物の名前だそうです。

アジサイの名前の由来は、集（あづ）、真（さ）、藍（あい）を合わせたもので、青い花が集まって咲くところから付けられたと言われます。雨に濡れた風情がもっとも美しいとされる、青紫の紫陽花の花に相応しい名で、万葉の時代から歌われ、親しまれてきました。また、幕末に長崎に来ていた医師のシーボルトは、彼の著書『日本植物誌』で紫陽花の学名をハイドランジア・オタクサと命名し、世界に広めました。この名は彼の愛した長崎丸山の遊女お滝さん（楠本滝）に因んで名付けられています。

アジサイは日本原産で、古来より広く園芸用に栽培されてきましたが、近代まで中国から伝来した花と思われていたりして、その歴史はよく分かっておりません。高さは 1.5 m ほどで、春から夏には、美しい緑の葉をこんもりと茂らせ、6～7月、枝先に半球状の装飾花を咲かせます。淡い青紫色の小花に見えるものは、じつは萼片で、本当の花弁はごく小さいのです。小さな花には雄しべも雌しべもありますが、結実はしません（母種とされるガクアジサイは結実する）。花色は、栽培する場所の土質が大きく影響し、青色系の花には酸性土が、赤色系にはアルカリ性土が適しており、花の色をより鮮やかにします。

あぢさゐの藍のつゆけき花ありぬ

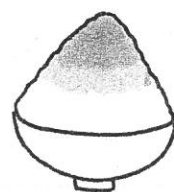
ぬばたまの夜あかねさす昼 佐藤佐太郎

紫陽花に秋冷いたる信濃かな

杉田久女



公園だより



バラ園

今年は、春に寒い雨の日が多かったことから、園芸暦が大幅に遅れてしまいましたが、6月からは暖かい日が続き、バラ園のリニューアル作業も順調に進んできました。7月の上旬には、例年どおり一番花が満開となり、賑やかな花の季節を迎えることができました。しかし、彩花祭り前後の長雨のため、例年よりも花の傷みが早かったようで残念です。しかし、7月下旬には2番花の花蕾があがってきており、これから8月も色とりどりのバラの花が咲いて、皆さんに楽しんで頂けることと思います。暑さの季節を迎え、バラ園では病虫害の対策にも忙しい時期ですが、今月のバラの花もぜひ観賞して頂きますようご案内いたします。

♥今月のバラ園からの一口メモは、バラへの小さな侵略者であるハダニ対策についてです。肉眼では見えないほど小さいため、気がつくのが遅れると葉がかさかさになって落葉し、ひどくなると細い糸で包まれたようになります。ルーペなどで葉裏をよく見ると、緑やオレンジ色のハダニが動き回っているのが見えます。夏場の暑い時期には特に活発に加害するので注意が必要です。ダニ類はクモの仲間ですので殺ダニ剤で対処することが大切です。根元で越冬する成虫には、晩秋に石灰硫黄合剤を散布します。

室内公園色彩館では、サハラ、98 など壁面のツルバラや鉢植えのモダンローズが次々に咲いております。特に注目なのは、モダンローズの第一号となったラフランスの開花でしょうか？

南国温室では、パンヤ科の常緑高木であるパキラが珍しく実をつけました。パキラの実にはパンの実ともいって、種子を包む果肉が食用になります。

相 談 日 記

問 庭のエリモシャクナゲ（ハクサンシャクナゲ）のことで伺います。花が終わって初夏からのつやつやした葉を眺めて楽しんでいましたが、葉に円形で褐色の1～2 mm大の斑点が生じ、やがてこれが5～10 mmくらいに拡大し、灰褐色でまわりが褐色の帯で縁取られたようになりました。これは何が原因なのでしょう。また、どのように対処すれば良いか治療法や対策などがあれば知りたいのですが。

答 5～10 mmくらいの円形、灰褐色の病斑でまわりが褐色の帯で縁どられている特徴からして、シャクナゲの炭疽病と思われます。後に病斑上に黑色小粒点（分生子層）が多数形成され、新梢では暗褐色で水浸状の病斑になり、葉が垂れ下がります。類似の病気として葉斑病とペスタロチア病がありますが、病斑のまわりが暗褐色の帯で縁どられ、のちに病斑上に黑色小粒点を多数生じるので区別できます。

病原の生態と発生しやすい条件 この病菌は発病した葉の病斑内に分生子層が形成されたまま地上に落葉して、その葉の被害残渣とともに土壤中で越冬し、翌年分生子が飛散して第一次伝染します。また、病斑上に形成された分生胞子は、降雨のさいに水滴とともに周囲に飛散し、二次感染します。この分生・胞子は粘質物で覆われているので、風だけでは飛散せず、必ず雨（あるいは水）を必要とします。

この病原菌は殺傷力が強く、葉の表皮組織を貫通して侵入します。侵入してからは葉の組織から養分を吸収しながら病斑を形成していくのです。病原菌は6～32℃で生育し、適温は23℃といわれます。発生しやすい条件として、前年に本病が発生し、その残渣を土壌の中へすき込んだりした場合に発生しやすくなります。また、発病した葉や新梢をそのままにしておくのも同様となります。

防除のポイント 発病した葉や新梢はこまめに除去し、密植をさけ、過繁茂にならないようにし、風通しをよくしましょう。薬剤防除は、発生初期からダコニール1000、ダイセン、ダイファー、ビスダイセン、トップジンMなどの殺菌剤を7～10日おきに散布しましょう。



ペスタロチア病



炭疽病



葉に紫褐色角斑を多数生じる。葉表の病斑上にすすかび状物が発生

葉斑病

極めて強く栽培容易な山草～イカリソウ

花言葉 あなたを放さない



メギ科イカリソウ属の耐寒性多年草で、北海道中南部から九州の温暖帯に分布し、落葉樹林の林縁や林床で生育します。花の形が船を停泊させる錨に似ていることからこの名をもち、古くから中国産の種（ホザキイカリソウ）は、漢方薬（強壮剤）としても利用されています。性質は極めて強く、栽培も容易で、山野草栽培の入門種としてもうってつけの植物と言えます。根茎が横にはい凹凸に屈曲し、ふつう数本の茎が叢生します。葉に3本の枝（柄）があり、それぞれの枝に三小葉、合わせて九葉あるところから、^{さんしきようそう}三枝九葉草ともいいます。植え付け、植え替えは、強い性質からどんな時期でも作業ができますが、最適な時期は花後の初夏と秋です。根の成長が活発なため、植え替えは1～2年に1回行い、花つきをよくするには、花後や秋に施肥をして株の充実をはかります。鉢植えなどでの用土は、肥料もちと水はけなどを考慮し、赤玉土4、軽石砂4などに腐葉土2を配合したのを使います。

8～9月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ バラ園で絵手紙を書こう

日時 8月 7日（日） 13:00～15:00

講師 日本絵手紙協会 喜多登代子 さん 定員 20人 材料代 200円

♣ 芝生管理のポイント

日時 8月 21日（日） 13:00～15:00

講師 芝生コンサルタント 林 満 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ さし木でふやそう！

日時 8月 27日（土） 13:00～15:00

講師 林業試験場 研究員 さん 定員 30人 参加料 無料

♣ バラの押し花作り I

日時 9月 4日（日） 13:00～15:00

講師 押し花アーティスト 宇田川静子 さん 定員 30人 材料代 2,600円



編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで